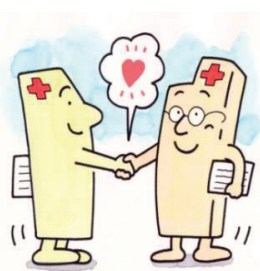


第214号

連携室だより



公益財団法人
北海道医療団

帯広第一病院



帯広第一病院理念・基本方針

【理念】

地域に信頼される病院を目指し、質の高い、思いやりのある医療サービスを提供する。

【基本方針】

- 1 患者の皆様の安全と権利を守ります。
- 2 地域医療機関との連携を推進します。
- 3 救急医療の充実に努めます。
- 4 研修や教育を積極的に行います。
- 5 働きがいのある職場を作ります。

病院機能評価に認定されました

帯広第一病院 院長 山並 秀章

この度、日本医療機能評価機構の主たる機能として一般病院2と副機能として緩和ケア病院の認定をいただくことができました。一般病院2に関しては初回の認定が2016年でしたので、1回目の更新であり、緩和ケア病院の認定は初回となります。本来、機能評価は5年ごとに更新となるのですが、新型コロナウイルス感染症の蔓延のために、受審を2回延期したため、2年遅れての受審でした。感染対応に追われた中でしたが、各部門が準備に尽力してくれたおかげで無事、受審にこぎつけることができました。この場を借りて、全職員に感謝いたします。皆の努力が実を結び、認定を更新することができ、心からホッとするとともに、当院の診療が評価されたことをうれしく思います。

病院機能評価は診療レベルが一定の基準に達しているというお墨付きです。認定の名に恥じぬように、診療の質を高めていく所存です。十勝管内の皆様には今後ともよろしく願いいたします。



今号の内容

- ・病院機能評価に認定されました 帯広第一病院 院長 山並 秀章 (1)
- ・一般病棟で面会が再開しました 院長 山並 秀章 / 面会一部緩和について 看護部 部長 林 かおる .. (2)
- ・法人連携推進部の活動報告 音更病院 法人連携推進部 部長 光 恵子
- ほほえみヘルパーステーション所長就任のご挨拶 ほほえみヘルパーステーション 所長 南岡 美恵 ... (3)
- ・退職医師よりご挨拶 / 臨床研修医実習報告 (4)

一般病棟で面会が再開しました

院長 山並 秀章



一般病棟で対面の面会を再開いたしました。緩和ケア病棟を除けば、実に約3年ぶりの面会再開となります。ご家族の皆様からは、久しぶりに会えてうれしかった、元気そうな様子が見られて安心した、というお言葉をいただいております。ご家族と面会できないことが病状に悪影響を及ぼす患者様もいらっしゃいますので、その点でもよい影響が出ることを願っております。

今のところ、いくつかの制限付きではありますが、新型コロナの感染状況を勘案して順次、拡大していく予定です。今しばらく、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

また、病院内での不織布マスクの着用と手洗いの励行をお願いするとともに、体調不良の方の面会をご遠慮いただいております。これも、患者の皆様を感染からお守りするためです。ぜひともご協力をお願いいたします。

今後も感染対策には十分配慮しつつ、皆様のご希望にそえるように考えてまいりますので、よろしくをお願いいたします。

面会一部緩和について 看護部 部長 林 かおる



足掛け4年、新型コロナ感染症の流行を境に、数々の制限や中止をせざる得ない状況が続いてまいりました。帯広第一病院をご利用いただいております関係者の皆様には、長い間大変ご不便をおかけ致しました。

先般10月25日から入院患者様とのご面会を、制限付きではございますが再開しております。1回の面会時間は15分間、予約制でご面会いただけます。患者様やご家族の喜びや笑顔を通して、面会の再開に踏み切って本当に良かったと、改めて感じている次第です。

新型コロナ感染症に由来する制限は、今後も状況に合わせて検討させていただき、安全で快適な環境を、引き続き提供させていただく所存です。

～面会手順の詳細につきましては帯広第一病院ホームページをご覧ください～

面会でお越しの方

面会前に手指消毒を
お願いいたします

- ・スタッフステーションへお声掛けください
- ・1患者につき2名まで（中学生以下はご遠慮いたします）
- ・面会時不織布マスクを着用ください
- ・面会時間15分以内、タイマーをご利用ください
- ・面会終了後は、タイマーをスタッフステーションへご返却いただき、お帰りの際は面会許可シールを破棄してください

ご理解ご協力をお願いいたします

病院長

帯広第一病院HPにて「面会一部緩和について」の詳細を掲載しております。
QRコード、URLから帯広第一病院ホームページにアクセスいただけます。

URL <https://www.zhi.or.jp/d/info/20231024-2/>



法人連携推進部の活動報告

音更病院 法人連携推進部 部長 光 恵子



平素は大変お世話になっております。

2023年6月8日木曜日から、法人連携推進部として地域の病院や福祉施設や支援事業所などから入院・入所に関する窓口を一本化するとの方針で活動を開始しました。

当初は、連携推進部を通して受け入れ先が決まらないうちから、法人内の事業所から情報確認の問い合わせをしてしまったり、受け入れ先が決まった後に、事業所から連携推進部に伝えている内容と重複して聞かれたりとお迷惑をおかけしていたことが多々あったのではないかと考えます。

6月から9月までの実績は、月平均50件前後の紹介をいただきました。99%の応需に至っております。管内・管外問わず、病院からの紹介が多いですが、居宅系からの紹介も増えております。

依頼元から法人内事業所の指定もありますが、指定がない場合においても、概ねの受け入れ日を明確にして、依頼元やご家族に選択していただいております。

また、病院機能により治療後の経過観察のみであるが病床により入院調整が必要な場合や、自宅で療養されていたが、フォローする家族の調整が困難になった場合においても相談が多くなっております。

当法人は、医療機能は、急性期・回復期・慢性期・緩和など、福祉機能では、介護医療院、老健など持ち合わせております。

引き続き、相談のみでも、ご活用いただければ幸いです。また、運用上で不具合などありましたら様々なご意見を連携推進部にいただき、更なる向上に努めてまいります。

下記のような場合でも是非、ご依頼・ご相談ください。よろしくお願いいたします。

- ・ 指定後見人が決まっていないとか介護認定が決定していない場合
- ・ 治療が終了しているが、居宅施設の受け入れ時期を待つ期間が必要
- ・ 治療後の経過観察時期であるが、病床コントロールが必要
- ・ 在宅介護中であるが、家族が入院や治療が必要となり介護が困難 等

法人連携推進部 方針

- ・ 依頼元への返事は、迅速に対応する
- ・ 原則、依頼は全応需する
- ・ 様々な、要件を受け入れる



法人連携推進部

MSW：平野、中川、事務員、野澤

電話：0155-43-5500

FAX：0155-43-5501

Mail：houjin-renkei@zhi.or.jp

ほほえみヘルパーステーション所長就任のご挨拶

ほほえみヘルパーステーション 所長 南岡 美恵



10月から野原前所長の後任として、ヘルパーステーションほほえみの所長に就任した南岡です。

2014年に入社してから「地域の皆様が住み慣れた我が家でいつまでも安心して暮らせるように」という理念のもと、微力ながらほほえみの一員として利用者の皆様に関わってまいりました。

入社当初は常勤5名、登録ヘルパー3名で、70人程度の利用患者様宅を訪問してまいりましたが、現在は常勤8名、登録ヘルパー4名で音更区域を中心に120人ほどの利用者様宅を訪問させていただいています。

2000年4月に開設してからこれまで、各事業所様と連携を図り、我が家で暮らしたいとの思いを持った利用者様に寄り添い支援してまいりました。今後も様々な出会いに感謝し、地域に根ざし、地域で選ばれる事業所として認められるよう努力していきたいと思っております。今後とも御指導、御鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

退職医師よりご挨拶



専攻医
消化器内科
東京都立多摩
総合医療センター
竹田 安里彩

十勝管内の先生方、医療スタッフの方々、平素より大変お世話になっております。

11月末で半年間の帯広第一病院での研修を終え退職となりますので、ご報告させていただきます。

半年間、内視鏡手技や広範な十勝地域の救急医療に携わらせていただき、医師として多くの経験を積むことができました。各診療科の先生方、医療スタッフの方々共にとても親切に接していただき、また多くのご指導をいただきありがとうございました。

この半年間の学びを糧に、今後も医師として精進して参ります。また別の機会にてお世話になることもあるかと存じますが、その際は宜しくお願い致します。

短い間でしたが、本当にお世話になりました。皆様の今後の更なるご活躍とご健康を、心よりお祈り申し上げます。

臨床研修医実習報告



臨床研修医
浅野 雄貴

十勝管内の医療従事者の皆様には日ごろより大変お世話になっております。

本年度から初期研修医として帯広第一病院に入職いたしました浅野雄貴と申します。

入職してから半年間で消化器内科、麻酔科、救急科をローテーションいたしました。この半年間で医師国家試験のための勉強とはうってかわり、目の前に実際に患者さんがいるという責任は非常に重く、常に緊張感をもって医師という仕事に向き合っていく必要があると実感いたしました。その中でローテーション中の診療科の先生方や他科の先生方、さまざまなスタッフの皆様により優しく手厚くフォローしていただきながら、多彩な手技や診療について勉強できるという環境にいれることに誠に感謝しております。

緊張感を忘れず、今後も鍛錬を続けていきたいと考えておりますので、これからも何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



臨床研修医
三宅 陸斗

4月より入職致しました初期研修医1年目の三宅陸斗と申します。

入職後より総合診療科、救急科、麻酔科をローテーションし、現在は消化器外科をローテーションしております。最初はわからないことや上手くできないことが多くありましたが、繰り返していくうちにできることが徐々に増えてきており、日々進歩を感じています。また、わからないことなどは指導医の先生方が丁寧に教えていただき、充実した研修生活を過ごしております。

現在ローテーションしている消化器外科では病棟業務や外来、手術など様々なことを学んでおります。まだまだ知らないことやわからないことが多くありますが、一歩ずつ前に進めるよう日々精進していきたいと思っております。

これからも自己研鑽に努めて参ります。今後ともよろしくお願いいたします。



発行 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療連携室

〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3

TEL 0155-25-3121 (病院代表) / 0120-558-091 (連携室直通)

FAX 0155-27-0248 (連携室専用) e-mail renkei@zhi.or.jp

